

四 作家

- 家持の古歌誤読例追加 沢瀉久孝 国語・国文(四八、20・9) 7
- 大伴旅人の讃酒歌 久米常民 国語と国文学(三三、21・2) 17
- 憶良抄(万葉集選釈) 久松潜一 解釈と鑑賞(一一三、21・3) 2
- 作品鑑賞の実際―人麿について― 西郷信綱 解釈と鑑賞(二四、21・4) 5
- 中皇命私考 土屋文明 文学(二四六、21・6) 4
- 赤人の不尽の歌―長歌の真实性について― 五味智英 文学(四七、) 1
- 赤人写実の性格―ラファエルとの比較に触れつゝ― 森本治吉 国語と国文学(三九、21・9) 15
- 大伴三中の歌 川崎庸之 文学(二五、22・1) 7
- 日本文学の人間性(山上憶良を中心として) 森本治吉 光(三七、22・7) 6
- 人麿歌集二首 佐竹昭広 文学(二五八、22・8) 3
- 黒人の羈旅歌の場合 藤森朋夫 短歌雑誌

- (二二、23・3) 4
- 齋明天皇御製攷 沢瀉久孝 国語・国文(七三、23・8) 14
- 憶良の述作―沈痾自哀文を中心として― 小島憲之 国語と国文学(五九、23・9) 5
- 柿本人麿 五味智英 解釈と鑑賞(四一、24・1) 6
- 家持の人間像 石井庄司 解釈と鑑賞(四二、24・1) 6
- 戯曲山上憶良 森本治吉 解釈と鑑賞(四二、24・1) 7
- 額田王と大海人皇子―蒲生野の贈答歌に関する一考察― 大野 毅 解釈と鑑賞(四三、24・2) 9
- 歌わぬ人・家持 川崎庸之 短歌俳句研究(四、24・6) 9
- 天智天皇御製攷 沢瀉久孝 国語・国文(六三、24・8) 10
- 山上憶良の研究(一)―万葉集卷五の成立を中心として― 尾林宗雄 説林(二、24・10) 32
- 額田王論 樋口芳麻呂 国語と国文学(六二、24・11) 9
- 山上憶良の研究(二)―万葉集卷五の成立を中心として― 尾林宗雄 説林(三、25・3) 5
- 山上憶良の研究(三)―万葉集卷五の成立を中心として―

- 心として― 尾林宗雄 説林(二、四、25・4) 3
- 人麿歌集の用字法と人麿的なものとの関連について 高木市之助 国語と国文学(七三、25・5) 8
- 磐姫皇后の作歌についての疑ひ 清田秀博 国文学研究(復刊三、25・5) 18
- 山上憶良の研究(完)―万葉集卷五の成立を中心として― 尾林宗雄 説林(三、25・5) 10
- 人麻呂の歌一首 沢瀉久孝 芸林(芸林会)(一一三、25・6) 5
- 舍人人麿 高木市之助 日本文学研究(三三、25・6) 3
- 山部宿禰赤人の反歌二首について 木船正雄 日本文学研究(四、25・7) 6
- 家持の李の花の歌 五味智英 文学(六九、25・9) 6
- 女流歌人論―額田王― 清原道子 解釈と鑑賞(五二、25・10) 3
- 女流歌人論―大伴坂上郎女の生涯とその作品― 大河内由美 解釈と鑑賞(五二、25・10) 4
- 人麿についての研究ノート―古代天皇制と詩歌との関係その一つの場合― 藤間生大 文学(六二、25・10) 16
- 万葉集女歌人私見 北見志保子 解釈と鑑賞

(五二、25・10) 7
傍観者の位置―憶良を中心として―

今井福治郎 日本文学論究(七、26・3) 9
憶良の用語と其出典 小島憲之 アララギ
(四四、四、26・4) 4

大伴旅人の作文力 五味智英 アララギ(四四、
四、26・4) 3

柿本人麿は位留か 田辺 爵 日本文学研究
(二四、26・7)

山部赤人の歌(一) 窪田空穂 短歌芸術(七、
八、26・8) 5

山部赤人の歌(二) 窪田空穂 短歌芸術(七、
九、26・9) 5

高橋虫麻呂論 武田祐吉 文学研究(日本文
学研究会)(七、26・9) 3

紀皇女と多紀皇女 吉永 登 万葉(一、26・
10) 11

人麿と赤人 犬養 孝 日本短歌(三〇、九、26・
10) 4

田辺福麿 久松潜一 日本文学研究(三七、26・
11) 5

高市皇子は皇長子か 久米常民 日本文学研
究(三七、26・11) 7

卷十と大伴家持 田辺幸雄 日本短歌 (二〇、
二〇、26・11) 4

大伴家持の自署ある文書 弥永貞三 日本歴
史(四三、26・11) 4

有間皇子 田辺幸雄 国語と国文学(二九、
27・1) 9

憶良の長歌 清水克彦 万葉(三、27・1) 7
紀皇女に就て 尾山篤二郎 万葉(三、27・
4) 8

人麿 玉城 徹 短歌研究(九五、27・5) 4
柿本人麻呂雑攷 沢瀉久孝 国学院雑誌
(五三、二、27・6) 7

齋明天皇論 田辺幸雄 万葉(四、27・7) 14
中皇命と有馬皇子 田中 卓 万葉(四、27・
7) 9

尾山氏に答える―紀皇女に就て― 吉永 登
万葉(四、27・7) 2

藤原宮之役民作家は人麿の作か 大久保 正
国語と国文学(元九、27・9) 11

誤られたる万葉歌人―先太上天皇考―
田中卓 日本歴史(五、27・9) 5

人麿 高木市之助 国語と国文学 (二九、二〇、
27・10) 7

家持論の展望 五味智英 国語と国文学(二九、
二〇、27・10) 8

憶良の「好去好来」 小島憲之 万葉(五、27・
10) 2

柿本人麿―その文学を支えるもの―
難波喜造 日本文学(一、27・11) 8

鴨ノ君足香具山の長歌について―伝承歌にお
ける対向の転換― 吉永 登 国語・国文

(三二、二、27・12) 7

人麿歌集中の一首―二三九八の歌について―
大浜巖比古 天理大学学報(六、27・12) 16

防人等 益田勝美 万葉(六、28・1) 10
人麿長歌の位置―口誦歌と記載歌―
清水克彦 万葉(六、28・1) 13

長屋王―日本古代政治史のための断章―
北山茂夫 立命館文学(三三、28・2) 19

天武天皇をめぐる―西郷信綱 文学(三三、
三、28・3) 11

白鳳の宮廷詩人―山柿の問題に寄せて―
北山茂夫 万葉(七、28・4) 13

入声音より見た人麻呂の用字法 三吉 陽
万葉(七、28・4) 9

万葉雜記「大伴家持の自署」 大成編集部
万葉集大成月報(三、28・6) 1

高市黒人―特に第三句目の地名表現について
― 犬養 孝 語文(六、28・7) 13

山上憶良―文学形式をめぐる― 西郷信綱
日本文学(二、二五、28・7) 6

人麿における推定表現の丹精 森 重敏
万葉(八、28・7) 11

人麿と赤人の場合 藤森朋夫 解釈と鑑賞
(二八、八、28・8) 2

再び大伴家持の自署について 弥永貞三
万葉集大成月報(五、28・8) 7

山柿の論 久松潜一 万葉(六、28・10) 7

- 紀皇女をめぐる論争について―併せて高安王の系譜を論ず― 田中 卓 万葉(六、28・10) 7
- 大伴家持の語彙 蜂矢宣朗 万葉(六、28・10) 7
- 天平時代の人物 武田祐吉 明日香路(六、29・1) 10
- 大伴家持研究―植物の歌を中心として―
若浜汐子 白路(九二、29・1) 4
人麿歌集と人麿作歌 大久保 正 文学(三二、29・1) 10
- 額田王(上) 田辺幸雄 短歌研究(二二、29・2) 14
- 憶良の七夕歌二題 山崎 馨 語文(二二、29・3) 3
- 人麿 五味智英 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 1
- 憶良 松下宗彦 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 1
- 虫麿 犬養 孝 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 1
- 家持 藤田寛海 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 2
- 旅人 上田英夫 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 1
- 坂上郎女 若浜汐子 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 1
- 赤人 柴生田 稔 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 1
- 黒人 藤森朋夫 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 7
- 額田王 田辺幸雄 解釈と鑑賞(一九四、29・4) 1
- 額田王(下) 田辺幸雄 短歌研究(二二、29・4) 6
- 現代感覚から観た人麿、額田王、坂上郎女、東歌の恋愛歌 長沢美津 日本短歌(三三、29・4) 5
- 山部王について 山崎 馨 万葉(二二、29・4) 4
- 万葉集巻五と山上憶良 久松潜一 国語と国文学(三七、29・7) 7
- 憶良の作風―文学論のために― 清水克彦 文学(三六、29・11) 10
- 人麿の献呈挽歌 吉永 登 文学(三二、29・11) 16
- 人麿の歌に関する二三の疑ひ 倉野憲司 国語と国文学(三二、29・12) 7
- 人麿をめぐる字音仮名と記紀歌謡との対比 鴻巣肇雄 昭和28年度古事記年報(二、30・1) 10
- 憶良文学の基調としての父性愛 塩山輝士 不知火(八、30・1) 3
- 越中守家持の作品をめぐって 吉井 巖 万葉(五、30・4) 10
- 大伴家持小論 北山茂夫 万葉(五、30・4) 14
- 周辺の意味―憶良の場合― 高木市之助 国語・国文(四二、30・5) 11
- 人麿長歌の修辭研究―特に序詞の使用について― 岡本庸子 語文研究(九州大学)(二、30・5) 8
- 橘諸兄論(一) 井上 豊 上代文学(五、30・5) 4
- 柿本人麿研究―その植物について―
若浜汐子 上代文学(五、30・5) 7
人麿発想の底にあるもの 池田 勉 成城文芸(四、30・7) 21
- 大伴三中与遣新羅使歌の主題 迫 徹郎 国語と国文学(三九、30・9) 9
- 人麿長歌の構想について 安良岡康作 解釈(二六、30・10) 3
- 抒情詩人としての虫麻呂 青木生子 上代文学(六、30・10) 6
- 石上乙麿に関する作品について―その一つの解釈― 八木 毅 上代文学(六、30・10) 9
- 「郎女」と「女郎」―石川郎女の場合を中心として― 赤木佳代子 上代文学(六、30・10) 4
- 大海人皇子(上) 田辺幸雄 短歌研究(二二、30・10) 8

山上憶良論 塩谷 滋 日本文学研究(関西学院大学)(七三、30・10) 9
 壬甲の乱と柿本人麿 田辺 爵 文学(三三、30・11) 7
 大海人皇子(下) 田辺幸雄 短歌研究(三三、30・11) 9
 憶良・旅人と六朝詩人 小沢正夫 紀要(愛知県立女子短大)(六、30・12)
 葛城玉考―万葉集を中心として― 磯貝正義 山梨大学文学部研究報告(七三年度) 8
 柿本人麿論―「過近江荒都時」歌の成立― 藤原正義 国語と国文学(三三、31・1) 9
 大津皇子とその政治的背景 吉永 登 日本文学(五二、31・1) 8
 大伴坂上郎女の場合 吉野 裕 日本文学(五二、31・1) 5
 柿本人麿ノート 西郷信綱 日本文学(五二、31・1) 12
 天智天皇の年令をめぐる 田辺幸雄 日本文学(五二、31・1) 6
 人麿に於ける伝統と創造―吉野の歌をめぐる― 清水克彦 日本文学(五二、31・1) 8
 柿本人麿歌集私見 青木紀元 福井大学文学部紀要(人文科学)(五、31・1) 12
 影うすき女帝 吉野 裕 万葉集大成月報(三三、31・3) 3
 人麿の方法 池田 勉 和歌文学研究(二、

31・3) 4
 人麿の反歌一首―意味論的考察― 佐竹昭広 万葉(元、31・4) 6
 山上憶良私考―天平三年― 和田耕二 国語と国文学(三三六、31・6) 9
 柿本人麿の詩境に就いて―芸術物理学序説― 亀谷敬三 北九州大学論文集(五、31・8) 46
 柿本人麿の長歌―万葉集教授上の問題点― 難波喜造 国文学(二三、31・9) 4
 「貧窮問答歌」の憶良―万葉集教授上の問題点― 益田勝実 国文学(二三、31・9) 4
 人麻呂の挽歌一つ 伊藤 博 解釈と鑑賞(三二〇、31・10) 3
 額田王の歌「秋風吹」について 筏 勲 解釈(三二、31・11) 2
 大伴家持とその用字法 井上富蔵 岡山大学法文学部学術紀要(七、31・12)
 「葉過去」補説 尾崎知光 解釈(三三、31・12) 2
 柿本人麿終焉歌とその周辺 高崎正秀 国学院雑誌(七六、31・12) 24
 虫麻呂の心―孤愁のひと― 犬養 孝 国語と国文学(三三三、31・12) 9
 赤人の相聞歌を巡って 亀井雅司 文学史研究(五、31・12) 7
 挽歌の詠詠―人麻呂殯宮挽歌の特異性― 伊藤 博 国語・国文(二六三、32・2) 17

柿本人麿の抒情の構造―その一 反歌の特色― 益田勝実 日本文学(二六三、32・2) 6
 柿本人麿の長歌―挽歌に於ける主題の発想と構成― 上野冴子 国文研究(六、32・3) 9
 人麻呂挽歌の意義 浜田清次 日本文学研究(高知市)(一、32・3) 9
 人麻呂の表題と史実―所知食世者と申賜者をめぐる― 伊藤 博 万葉(三三、32・4) 8
 風景歌人黒人の一特質 石井庄司 上代文学(八、32・6) 4
 天智・天武兩帝 田辺幸雄 上代文学(八、32・6) 6
 磐姫皇后 鴻巣隼雄 上代文学(八、32・6) 6
 柿本人麿論序説―人麻呂のカオスをめぐって― 大久保 正 上代文学(八、32・6) 4
 旅人の望郷歌 賀古 明 上代文学(八、32・6) 9
 憶良の作品の成立と伝来 今井福治郎 上代文学(八、32・6) 6
 柿本人麻呂の世界 清水克彦 万葉(二二、32・7) 13
 人麿の長歌と短歌―特に短歌の声調について― 岡崎義恵 万葉(二五、32・10) 12
 人麻呂長歌寸言 五味智英 万葉(二五、32・10) 6
 人麿作品の形成―註記・或本歌の論―

- 松田好夫 万葉(三、32・10) 3
 人麻呂と風土―さみねのてま― 犬養 孝
 万葉(三、32・10) 11
 叙景歌と人麻呂―その成立の契機としての
 「麗げこの山」― 大浜巖比古 万葉(三、
 32・10) 12
 菟田山と狹岑島―人麻呂に於ける神―
 木下正俊 万葉(三、32・10) 5
 家持の悲しみ 森脇一夫 上代文学(九、32・
 12) 6
 山部赤人―吉野從駕の反歌をめぐって―
 尾崎暢映 上代文学(九、32・12) 10
 笠女郎―文芸史的位相について― 青木生子
 上代文学(九、32・12) 8
 坂上郎女 若浜汐子 上代文学(九、32・12) 7
 狭野の茅上の娘子と中臣の宅守 竹内金治郎
 上代文学(九、32・12) 9
 柿本人麻呂の歌一首 沢瀧久孝 清心国文
 (二、32・12) 7
 人麿と神話 久米常民 説林(愛知県立女子
 大学)(二、32・12) 11
 雄略天皇の相驗 榑原忠彦 日本文学研究
 (三、32・12) 14
 基壇越 中西 進 文学・語学(六、32・12) 9
 有間皇子 北住敏夫 国文学(三、33・1) 33・4) 6
- 額田王 谷 馨 国文学(三、33・1) 6
 柿本人麻呂 高崎正秀 国文学(三、33・1) 8
 高市黒人 田辺幸雄 国文学(三、33・1) 5
 山部赤人 犬養 孝 国文学(三、33・1) 5
 山上憶良 大久保 正 国文学(三、33・1) 7
 高橋虫麻呂 小島憲之 国文学(三、33・1) 6
 大伴旅人 益田勝美 国文学(三、33・1) 5
 大伴家持 藤田寛海 国文学(三、33・1) 6
 坂上郎女 青木生子 国文学(三、33・1) 4
 湯原王 阿部俊子 国文学(三、33・1) 5
 憶良の用語「それ」と「また」―助字の修辭
 的利用― 井手 至 万葉(三、33・1) 7
 万葉集の磐姫皇后 飯塚 誠 解釈(四、33・
 2) 3
 東歌所出の人麿歌集の歌をめぐって 福田良
 輔 文学・語学(七、33・3) 12
 憶良と中国 高木市之助 日本文学(七、33・
 4) 6
- 赤人の不尽山歌―崇高性の表出をめぐって―
 森脇一夫 街路樹(四、33・5) 3
 山上憶良私考―船主は憶良の子か― 稲岡耕
 二 国語と国文学(三、三、33・5) 9
 柿本人麿歌集試論―用字法よりの考察・其の
 一― 大野雅照 国語国文学研究(二、33・
 5) 26
 憶良ノート 村山 出 国語国文学研究(二、
 33・5) 10
 「葦垣の外に」―家持と池主― 賀古 明
 万葉集研究(三、33・5) 9
 万葉女流の情動表現―額田王作歌の魅力―
 森脇一夫 街路樹(四、33・6) 3
 山上憶良の「子等を思ふ歌」―口誦歌からの
 脱皮― 久米常民 説林(愛知県立女子大)
 (二、33・7) 12
 大伴旅人について―特に讃酒歌と梅花歌との
 關係について― 山崎良幸 日本文学(七、
 33・7) 12
 六朝風―旅人と憶良― 中西 進 上代文学
 (武田祐吉博士追悼号)(二、33・7) 13
 大伴旅人の帰京行程 宮本喜一郎 万葉(三、
 33・7) 9
 人麿歌集と人麿作品―その植物について―
 若浜汐子 上代文学(武田祐吉博士追悼号)
 (二、33・7) 10
 人麿の恋愛歌の意義 青木生子 和歌文学研

- 究(六、33・7) 11
- 万葉の女歌—大伯皇女の悲しみ— 森脇一夫
街路樹(四八、33・8) 3
- 柿本人麻呂の詩の形成 渡瀬昌忠 日本文学
(七八、33・8) 10
- 山部赤人の「叙景歌」私見 稲村栄一 万葉
(二六、33・10) 6
- 万葉の女歌—大伴坂上郎女の愛情表現—
森脇一夫 街路樹(四二、33・11) 3
- 柿本人麻呂の詩の形成(承前)—相聞長歌を
中心に— 渡瀬昌忠 日本文学(七二、33・
11) 12
- 山部赤人論—その自然描写の限界— 尾崎暢
映 大学紀要(和洋女子大)(三、33・12) 11
- 人麻呂の語句をめぐって 瀬古 確 国文学
(四二、34・1) 5
- 憶良の枕詞の扱い方 境野周一 国文学(四
一、34・1) 3
- 筈女郎小論 田中佩刀 国文学(四一、34・1)
3
- 天武天皇における天照大神と神武天皇—人麿
作家の背景として— 吉永 登 国文学
(関西大学)(四二、34・1) 6
- 万葉の女歌—筈女郎の抒情— 森脇一夫
街路樹(五二、34・2) 3
- 人麻呂の修辭—特に枕詞序詞について—
瀬古 確 熊本大学教育学部紀要(七、34・
2) 13
- 磐姫皇后の歌—万葉集第二の性格—
伊藤 博 国語・国文(二六、34・2) 15
- 柿本人麻呂と碑田阿礼—天武朝の文学史意義
— 吉田義孝 国語国文学報(九、34・2)
15
- 安騎野の歌—人麻呂の作歌精神— 清水克彦
女子大国文(京都女子大学)(三、34・2)
10
- 軽の妻の死せる時の歌—人麻呂の作歌精神—
清水克彦 万葉(三、34・4) 11
- 憶良・旅人私記—讀酒歌の構成をめぐって—
稲岡耕二 国語と国文学(三六、34・6) 9
- 山部赤人論—国見歌の継承と展開—
尾崎暢映 万葉集研究(四、34・6) 11
- 人麿長歌試論 杉山康彦 文学(三七、34・
7) 10
- 辛荷鳥歌考—赤人美の構造の一面—
犬養 孝 明日香(四七、34・7) 7
- 大津皇子(悲劇の皇子⑤) 木島栄一 形成
(七七、34・7) 6
- 筈女郎の歌の位置 服部喜美子 万葉(三三、
34・7) 14
- 山上憶良の表現—特にその用語に就いて—
瀬古 確 美夫君志(一、34・12) 7
- 大伴家持における「きみ」の考察 能勢頼賢
学苑(三六、35・1) 1
- 山部赤人の自然詠四首—その仮構性について
— 久米常民 紀要(愛知県立女子大)
(二、35・1) 16
- 柿本人麿新論 森本治吉 中央大学文学部紀
要(九、35・1) 77
- 赤人の吉野讃歌 伊藤 博 国語教育(四、
35・2) 7
- 人麻呂歌集と人麻呂作家—その関連について
の一考察— 橋本達雄 国文学研究(三三、
35・2) 8
- 雄略天皇—古典作家ノート②— 木島栄一
形成(八三、35・3) 3
- 人麿における天照大神と神武天皇 吉永 登
島田教授古稀記念国文学論集(関西大学)
(35・3) 9
- 長屋王故郷歌一首 中西 進 万葉(五五、35・
4) 8
- 家持の美意識 森脇一夫 語文(日本大学)
(八、35・5) 10
- 人麿歌集の景物について—卷十所出歌を考察
の対象として— 森 淳司 語文(日本大
学)(八、35・5) 12
- 憶良雑感 宮坂善三 上代文学研究会々報
(東洋大学上代文学研究会)(六、35・6) 2
- 大伴旅人—太宰府赴任以前の作歌について—
美松寛定 上代文学研究会会報(東洋大学
上代文学研究会)(六、35・6) 4

大伴旅人論 塩谷 滋 日本文芸研究 (二三)

二、35・6) 13

鶴鳴き渡る―赤人の自然美の造型―

犬養 孝 日本文学 (九八、35・8) 12

大伴坂上郎女ノート 古庄ゆき子 日本文学

(九六、35・9) 14

万葉贈答歌に於ける本歌取りの傾向―藤原麻

呂と大伴坂上郎女の場合― 久米常民 美

夫君志 (二、35・9) 11

長意吉麻呂の物名歌 伊藤 博 美夫君志

(二、35・9) 11

大伴の防人歌 伊藤美考 国語国文研究(七

35・10) 7

旅人の宮廷儀礼歌 清水克彦 万葉(三三、35・

10) 10

舍人と挽歌―人麻呂舍人説の基礎的考察とし

て― 阿蘇瑞枝 万葉(三三、35・10) 10

大伴坂上郎女 谷岡みち 上代文学研究会々

報(東洋大学上代文学研究会)(七、35・11) 3

大伴旅人の文学とその読者 久米常民 説林

(七、35・12) 10

大伴坂上郎女の歌―その時と場― 賀古 明

大学紀要(和洋女子大)(五、35・12)

山上憶良新見 倉野憲司 文芸と思想(二〇、

35・12) 9

赤人観の展開 久松潜一 明日香(六六、36・

1) 3

憶良の歌に見られるもの二つ 吉永 登 万

葉(三六、36・1) 11

万葉集作家 五味保義 解釈と鑑賞(二六三、

36・2) 15

大伴家持論稿―抒情詩の基調について―

川上富吉 中央大学国文(四、36・2) 9

大伴旅人の館のありか 川井銀之助 芸林

(二二、36・4) 6

家持の自然観照 森脇一夫 語文(二〇、36・

4) 11

藤原卿の問題 井上 豊 上代文学(二、36・

5) 8

家持の芸境 横井 博 万葉(三六、36・5) 12

人麻呂歌集と人麻呂作との関連 橋本達雄

和歌文学研究(二、36・5) 4

石中の死人を見て作れる歌―人麻呂における

歌の実用的性格について― 清水克彦

万葉(四、36・7) 9

紀女郎の諧謔的技巧―「戯奴」をめぐる―

井手 至 万葉(四、36・7) 9

人麻呂作品の注記について―人麻呂歌集との

関連― 橋本達雄 国文学研究(四、36・9)

人麻呂における歌の出来、不出来をめぐる―

清水克彦 女子大國文(三三、36・10) 10

大伴家持の作歌態度について 土田知雄

日本文学論究(二二、36・10) 5

「人麻呂・芭蕉・赤人・蕉村」稿 吉池 浩

ハハキギ(二〇、36・10) 8

柿本人麿の羈旅の歌八首をめぐる― 吉川眞

一 ハハキギ(二〇、36・10) 5

大伴家持と藤原浜成 扇畑忠雄 文芸研究

(三六、36・10) 9

憶良「思子等歌」序文の典拠 井村哲夫 万

葉(四、36・10) 3

人麻呂集戲書「開木代」について 井手 至

万葉(四、36・10) 7

近江天皇を思ふ歌―額田王・天智天皇との関

係をめぐる― 大島美鈴 美夫君志(四、

36・10) 12

山上憶良の「恋男子名古日歌」 服部喜美子

美夫君志(四、36・10) 10

人麻呂集歌に見える「吉恵哉」「早敷哉」につ

いて 鶴 久 美夫君志(四、36・10) 7

高市黒人作中の「桜田」について 加藤静雄

美夫君志(四、36・10) 6

山上憶良と奈良朝貴族の下級性 福島 頸

上代文学研究会々報(二〇、36・11) 1

大伯皇女と天津皇子 塚原鉄雄 明日香(三七、

37・1) 4

家持と諸兄 久松潜一 明日香(三七、37・

1) 4

万葉集における家持の用語―枕詞について―

能勢頼賢 学苑(昭和女子大学光葉会)

(四四、37・1) 19

雄略御製の伝誦 中西 進 万葉 (四、37・1)

持統天皇―大伯皇女と大津皇子(一)― 塚原鉄雄 明日香(三七・二、37・二) 4

家持の用字をめぐる―特にその愛用の仮字に就いて― 瀬古 確 熊本大学教育学部紀要(二〇、37・二) 12

額田王論 中西 進 東京学芸大学研究報告(三、37・二) 9

執念の寡婦―大伯皇女と大津皇子(三)― 塚原鉄雄 明日香(三七・三、37・三) 4

近江朝作家素描 中西 進 国文学(関西大学) (三、37・三) 14

憶良の手法と遊仙窟 吉永 登 国文学(関西大学) (三七、37・三) 7

中臣宅守小論―その配流の原因を中心として― 上田敦子 国文目白(一、37・三) 9

大伯皇女作品と環境 藤森朋夫 東京女子大学論集(三三、37・三) 12

尼理願をいたむうた 角前あい 女人短歌(五、37・三) 2

枕詞を通してみたる人麿歌集 森 淳司 文学・語学(三三、37・三) 12

和歌史における三歌人 久松潜一 国文学叢(二六、37・五) 7

柿本人麿の世界 塩谷 滋 日本文学研究(四三、37・六) 13

磐姫皇后 清水千代 女人短歌(五、37・六) 2

誄と人麻呂殯宮歌の問題 阿蘇瑞枝 文学・語学(四、37・六) 11

非情の論理―大伯皇女と大津皇子(四)― 塚原鉄雄 明日香(三七・七、37・七) 4

詩人・文人 中西 進 成城文芸(二〇、37・七) 44

人麿作歌の表現傾向について 久保明雄 不知火(四、37・七) 4

歌日誌の空白―歌わぬ詩人家持― 伊藤 博 万葉(四、37・七) 17

人麿作品の形成 中西 進 万葉(四、37・七) 23

近江の荒都を過ぎし時の歌―人麻呂の発想― 加藤静雄 美夫君志(五、37・七) 9

万葉の人間―四つの肖像― 稲垣富夫 美夫君志(五、37・七) 4

万葉集の連作歌試論―家持の喩族歌について― 杉浦茂光 美夫君志(五、37・七) 6

伊勢の秋山―大伯皇女と大津皇子(五)― 塚原鉄雄 明日香(三七・八、37・八) 4

人麻呂歌集非略体歌原本の性格―題詞の有無をめぐる― 渡瀬昌忠 国学院雑誌(三七・八、37・八) 19

真情纏綿―大伯皇女と大津皇子(六)― 塚原鉄雄 明日香(三七・九、37・九) 4

人麿長歌研究ノート 石川 格 国語(栃木県高等学校国語科研究会) (二、37・九) 8

遣唐使藤原清河 平原美代子 女人短歌(三、37・九) 1

高橋虫麻呂の伝説歌 川井洋延 街路樹(二〇、37・一〇) 2

高市黒人 森 朝男 構想(一、37・一〇) 7

持統女帝と大津皇子 高木 博 相模女子大学紀要(三三、37・一〇) 24

吉備津采女死ぬる時の歌―柿本人麻呂論の内― 清水克彦 万葉(四、37・一〇) 9

弓削皇子 高野正美 古典研究論考(一、37・一一) 9

憶良と中国の関係について 斎藤芳撰 上代文学会会報(三三、37・一一) 4

憶良の手法と遊仙窟 吉永 登 関西大学国文学(二、37・一二) 10

万葉の終焉 川口常孝 国学院高等学校紀要(四、37・一二) 28

人麻呂歌集と七夕歌 橋本達雄 国語の研究(二、37・一二) 12

萩祭―旅人追想― 川口常孝 古代文学(三、37・一二) 10

家持の越中守時代―特に色彩関係の用語について― 伊原 昭 古代文学(三、37・一二) 6

額田王―その年令について― 森 幸藏 京都立杉並高等学校紀要(三、37・一二) 11

連作歌人としての大伴旅人 久松潜一 明日香(二、38・1) 4
 大伴旅人―孤老の文学― 野上久人―尾道短
 期大学研究紀要(三、38・1) 21
 万葉集における家持の用語(承前)―枕詞に
 ついて― 能勢頼賢 学苑(三六、38・1) 17
 憶良の歌に関する二三の問題 倉野憲司
 国語と国文学(四一、38・1) 12
 大伴家持の歌風―その形成と発展― 久米常
 民 説林(二、38・1) 10
 柿本人麿(古典鑑賞) 上田三四二 短歌
 (二〇、38・1) 3
 大伴家持と古泉千樫と土屋文明 橋本徳寿
 短歌研究(三二、38・1) 6
 大伴家持青年期の歌 武智雅一 愛媛国文研
 究(三、38・2) 7
 間人皇女―天智天皇の即位をはばむもの―
 吉永 登 日本文学(三二、38・2) 12
 人麻呂峠(上) 神田秀夫 国語国文(三三、
 38・2) 11
 人麻呂峠(下) その配列の由来をめぐって―
 神田秀夫 国語国文(三三、38・3) 12
 額田王―その生立と家柄について― 島田雅
 子 成城万葉(一、38・3) 6
 万葉集に於ける梅の内容的考察 坪井美紗子
 成城万葉(一、38・3) 7
 山部赤人(古典鑑賞) 玉城 徹 短歌(二〇、

三、38・3) 3
 有間皇子の歌をめぐって 境田四郎 女子大
 学(国文篇)(二四、38・3) 29
 柿本人麿研究―長歌の主題発想構成に見るそ
 の独自性― 飛田道子 日本文学(東京女
 子大学)(三〇、38・3) 12
 死せる皇子らのための呪詞―政争の中の歌人
 たち― 大伴皇女の手記― 塚本邦雄 短歌
 (二〇、38・4) 6
 詩情の淵に生きる―額田王の世界― 安永路
 子 短歌(二〇、38・4) 5
 人間好きな体臭―高橋虫麿― 佐々木幸綱
 短歌(二四、38・4) 4
 移行期の歌人―古代政治と大伴家持の周辺―
 赤木健介 短歌(二〇、38・4) 5
 磯城皇子と「河内王」 神田秀夫 万葉
 (二七、38・4) 3
 家持粗述 北上俊人 構想(三、38・5) 3
 柿本人麿―吉備津米女挽歌をめぐって―
 森 朝男 構想(三、38・5) 5
 旅人断想 小田 博 構想(三、38・5) 4
 志貴皇子 関根賢司 構想(三、38・5) 5
 山部赤人 武谷 格 構想(三、38・5) 4
 高橋虫麻呂―その閨歴及び作品の制作年次に
 ついて― 井村哲夫 国文学(関西大学)
 (二四、38・6) 9
 山上憶良伝(班一世に出るまで) 井村哲夫

千里山論集(一、38・5) 9
 柿本人麿研究における略体歌の位置―民謡性
 の問題を中心として― 吉田義孝 文学
 (三、三、38・5) 15
 南法華寺開基弁基 永井義憲 明日香(二六、
 38・6) 6
 人麿集とその所収巻について 森 淳司
 語文(日本文学)(二五、38・6)
 万葉集巻一・二の表記と憶良 伊丹末雄 美
 夫君志(六、38・6) 7
 万葉の人間―血の抗争(その二)― 稲垣富夫
 美夫君志(六、38・6) 5
 万葉集抄―大伴皇女の歌― 青木生子 むら
 さき(38・6) 6
 人麿署名歌における異伝 篠塚昌宏 上代文
 学(四、38・7) 32
 人麿序詞表現覚書 久保昭雄 不知火(二五、
 38・7) 2
 憶良「思子等歌」の論 井村哲夫 万葉(四、
 38・7) 10
 万葉集巻一・巻二における人麻呂歌の異伝―
 詞句の比較を通して― 曾倉 岑 国語と
 国文学(四六、38・8) 12
 万葉歌人 大久保 正 国文学(六六、38・8)
 6
 人麻呂歌集研究ノートから 大野雅照 国語
 国文研究(三、38・9) 14

越中守大伴家持の立場 米沢 康 日本歴史

(二六、38・9) 10

倭太后 五味智英 白珠(二六九、38・9) 2

大伴氏の長としての家持 序章―大伴家の歴史―内藤 馨 文芸と批評(一、38・9) 13

万葉宮廷歌人たち―生活史の一斷― 犬養 孝 国文学(二、38・11) 7

ふたかみのはか―大津皇子は何故二上山に移葬されたか― 堀内民一 日本文学論究(三三、38・12) 10

黒人と赤人の世界 五味保義 解釈と鑑賞(二一、39・1) 6

憶良・旅人と家持の世界 北山茂夫 解釈と鑑賞(二一、39・1) 9

人麿―時代と作品― 五味智英 解釈と鑑賞(二一、39・1) 5

柿本人麿―その生活と歌風の秘密― 谷 馨 国文学(九一、39・1) 7

高市挽歌論―高木氏の所論に関連して― 吉田義孝 万葉(五、39・4) 12

人麿歌集の所収歌―巻九・一七二五番歌の左注の範圍― 森 淳司 上代文学(六、39・6) 7

石川郎女ノート―彼女をとりまく婚姻慣行をめぐって― 古庄ゆき子 日本文学(三六、39・6) 10

少年大伴家持 田辺 爵 美夫君志(七、39・

6) 4
人麻呂の異伝をめぐって―巻一・巻二の場合― 曾倉 岑 美夫君志(七、39・6) 6

憶良から虫麻呂へ―作品史的系列の成立― 井村哲夫 美夫君志(七、39・6) 10

筑前守憶良の同僚―下僚―黄葉片々― 井村哲夫 万葉(五、39・7) 5

額田王覚書―歌人額田王誕生の基盤と額田王の採録― 万葉(五、39・10) 18

譬喩の構造―大伴家持小論― 伊藤 博 国語国文(三三、39・12) 21

熟田津について 上甲 利 国語と国文学(三三、21・8) 2

万葉地理研究の一方法 扇畑忠雄 国語・国文(五二、21・9) 9

万葉小倉山考 吉永 登 国語・国文(八、三、24・8) 4

「此の城の山」考―万葉集卷五(八二三)― 本田義彦 国語・国文(三二、26・1) 6

対島の渡り 西角井正慶 日本文学論究(七、26・3) 10

引馬野考 高藤 昇 国史学(六、26・7) 6

万葉の遺跡をさぐる 土屋文明他 解釈と鑑賞(七二、27・1) 115

土佐 片岡一義 解釈と鑑賞(七二、27・1) 2

伊予・讃岐 白石大二 解釈と鑑賞(七二、27・1) 5

沓岐・対馬 上田英夫 解釈と鑑賞(七二、27・1) 2

日向・薩摩・大隅 丸野弥高 解釈と鑑賞(七二、27・1) 2

肥前・肥後 大藪虎亮 解釈と鑑賞(七二、27・1) 4

豊前・豊後 森本治吉 解釈と鑑賞(七二、27・1) 2

周防・長門 斎藤清衛 解釈と鑑賞(七二、27・1) 2

筑前・筑後 高木市之助 解釈と鑑賞(七二、27・1) 4

吉備・安芸 西下経一 解釈と鑑賞(七二、27・1) 1

因幡・出雲・石見 犬養 孝 解釈と鑑賞(七二、27・1) 5

越中 大島文雄 解釈と鑑賞(七二、27・1) 5

能登・加賀 大津有一 解釈と鑑賞(七二、27・1) 3

若狭・越前 鴻巣隼雄 解釈と鑑賞(七二、

五 地 理